

# 山口県見島ジーコンボ古墳群出土の人骨

## — 山口大学埋蔵文化財資料館所蔵の資料 —

松 下 孝 幸\*

### はじめに

山口県萩市見島には「ジーコンボ」と称される古墳群が、海岸沿いに存在する。この古墳群は大正 12、15 年および昭和 36、37 年に調査が行なわれている。今回報告する資料は昭和 36、37 年に小野忠熈によって発掘調査が行なわれた第 123 号墳と第 155 号墳から検出された人骨で、これは山口大学埋蔵文化財資料館に保管されていたものである。当時の記録ではこれ以外の墳墓からも人骨が出土しているが、今回はこの二墳墓から出土した人骨のみに限って報告を行なっておきたい。なお、昭和 57 年（1982 年）にも山口県教育委員会が第 16、72、133 号墳の調査を行なったが、この際にも 5 体分の人骨が発掘されており、この人骨についてはすでに報告した（松下、他、1983）。

ジーコンボ古墳群は、考古学的所見から 7 世紀後半から 10 世紀初頭に築造されたものと推定されており、この時代の人骨は全国的にも出土量が少なく、人類学的にはきわめて貴重な資料となるものである。山口県ではこの時期の人骨としては防府市の国府跡から出土した人骨などが知られている。

### 資 料

今回報告する資料は第 123 号墳と第 155 号墳から出土した人骨である。出土人骨の体数、性別、年齢は Tab.11 に示すとおりである。

Tab. 11 人骨一覧

遺構番号	体数	性別	年齢	備 考
第 123 号墳	1	不明	不明	骨片（四肢骨）、少量
第 155 号墳	3(?)	—	—	大腿骨が 2 体分、Tab.12 参照

\* Takayuki MATSUSHITA 長崎大学医学部解剖学第二教室  
( Department of Anatomy , Faculty of Medicine , Nagasaki University )

山口県見島シーコンボ古墳群出土の人骨



Fig. 51 遺跡の位置

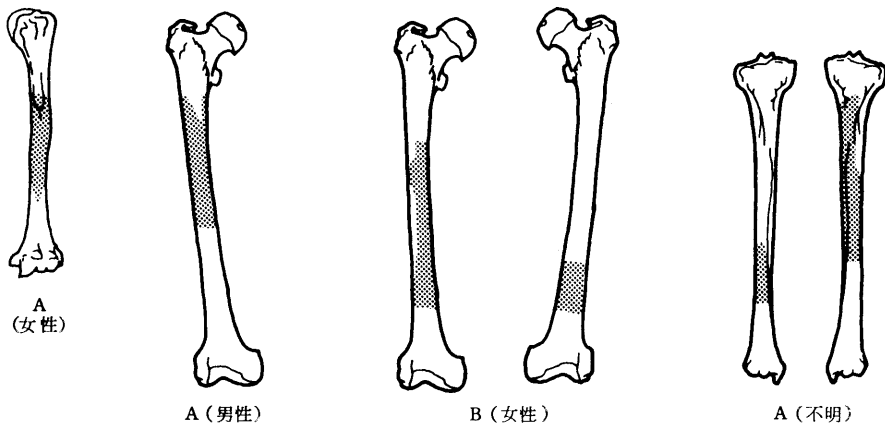


Fig. 52 人骨の残存部分(アミカケ部分)

## 所見および考察

骨種を同定できたものについては、残存部分をFig.52に示した。これらの人骨の所属時代は考古学的所見から8世紀中葉をさかのぼらない時期のものと推定されている。

計測方法は、Martin-Saller(1957)によったが、脛骨の横径はオリビエの方法で計測した。また、歯の計測は藤田(1949)の方法で計測した。

今回、比較に用いたのは、本遺跡から1982年に出土した人骨(松下、他、1983)、防府市の国府跡から出土した平安時代人骨(松下、他、1984)、それに弥生時代人骨の例として大友弥生人(松下、1981)、古墳時代(後期)人骨の例として、山口市の朝田墳墓群の横穴墓出土の朝田古墳人(松下、1982、松下、他、1983)を用いた。

## 所見および考察

第155号墳出土人骨のうち骨の種類を同定できたものは、残存部分をFig.52に示し、各骨の計測値は文末に一括して掲げた。

### 第123号墳出土人骨(性別・年齢不明)

四肢長骨の一部と考えられる骨片が少量存在していたにすぎない。重量にしてわずか5gである。

### 第155号墳出土人骨

上腕骨、大腿骨、脛骨、歯が残存しており、頭蓋は破片も残存していない。『見島総合学術調査報告』(1964年)によれば、歯が39個も残存していたことになっているが、今回確認し得た歯はわずか5個であり、このことから、今回調査できた人骨は、当時出土したもののうちの一部である可能性がある。今回確認できたものはTab.12のとおりである。

Tab. 12 第155号墳出土人骨

残存部分	性別	備考
歯(遊離歯)	—	5個
上腕骨A	女性	左側
大腿骨A	男性	右側
大腿骨B	女性	両側
脛骨A	不明	両側

## 1. 歯

遊離歯を5個確認した。報告書によれば39個あったことになっており、しかもその中に

は乳歯があったことになっているが、この5個の中には乳歯は存在しない。

歯種を同定できたものを歯式で示すと、次のとおりである。

/ / / P <sub>2</sub> / / I <sub>2</sub> /	/ I <sub>2</sub> / / / / / / / /
/ / / / / / / / /	/ / C / / / / / / /

〔 / : 不明 〕

なお、この他に下顎右側の大白歯の歯冠が1個存在するが、咬耗は著しく弱く、その様態から萌出直後と考えられる。39個の中には乳歯が存在したということであるから、この大白歯はM<sub>1</sub>かM<sub>2</sub>の可能性が強い。乳歯があったのなら、この第155号墳からは3体分の遺骨(歯)が出土したことになる。

咬耗度は下顎右側の大白歯がBrocaの1度で、ごく弱く、その他は2度である。

## 2. 上腕骨A

左側の骨体が残存していた。径はやや小さく三角筋粗面の発達も良くない。

計測値は中央最大径が20mm(左)、中央横径は15mm(左)で、骨体断面示数は75.00(左)となり、骨体の扁平性は強くない。中央周は59mm(左)で、骨体最小周は計測できない。

骨体の径が小さいことから、女性上腕骨と推定した。

次いで、本上腕骨を国府平安人、朝田古墳人、大友弥生人と比較してみると(Tab.13)、骨体の太さ(中央周)は国府平安人と同じ値で、この値は大友弥生人と朝田古墳人との中間値を示し、大友弥生人より小さく、朝田古墳人よりも大きい。骨体断面示数は大友弥生人より大きく、朝田古墳人に近く骨体の扁平性はあまり強くない。

Tab. 13 上腕骨計測値(女性、mm)

		ジーコンボ A		国府平安人 (松下、他)		朝田古墳人 (松下、他)		大友弥生人 (松下)	
		左		左		左		右	
		M	n	M	n	M	n	M	n
5.	中央最大径	20	1	19	2	19.50	25	21.68	
6.	中央最小径	15	1	17	2	15.00	25	15.48	
7.	骨体最小周	—	1	55	2	53.00	20	57.65	
7(a).	中央周	59	1	59	2	57.50	23	61.96	
6/5	骨体断面示数	75.00	1	89.47	2	76.84	25	71.53	

### 3. 大腿骨A

右側の骨体が残存していた。粗線の発達は良好で、骨体両側面の後方への発達も良いが、骨体上部は扁平ではない。

計測値は、骨体中央矢状径が28mm(右)、骨体中央横径が25mm(右)で、骨体中央断面示数は112.00(右)と大きく、粗線や骨体両面の後方への発達はきわめて良好である。また、上骨体断面示数は85.71(右)となり、骨体上部には扁平性は認められない。

骨体はそれほど太くはないが、骨体の形態などから男性大腿骨と推定した。

次いで、上腕骨の場合と同じように他の資料と比較してみると(Tab.14)、骨体の太さ(骨体中央周)はジーコンボ平安人と等しく、この値は朝田古墳人、大友弥生人よりは小さい。骨体中央断面示数は著しく大きく、ジーコンボ平安人、朝田古墳人よりも大きく、大友弥生人と大差ない。すなわち骨体の形態は大友弥生人的である。また、骨体断面示数はいずれの資料よりも大きく、骨体上部の扁平性はほとんど認められない。

本大腿骨を1982年の例と比較してみると、骨体の大きさは変わらないが、本例が柱状化、非扁平化の傾向を示すのに反し、前回の大腿骨は非柱状化、扁平化の傾向を示し、両者の形態は全く対照的である。

すなわち、本大腿骨の骨体は男性としては細い方であるが、柱状形成の傾向が強く、骨体上部の扁平性は認められない大腿骨である。

Tab. 14 大腿骨主要計測値(男性、mm)

	ジーコンボ A 右	ジーコンボ 平安人 (松下、他) 左		朝 田 古墳人 (松下、他) 左		大 友 弥生人 (松下) 右		
		M	n	M	n	M	n	M
6.	骨体中央矢状径	28	1	26	6	27.17	41	28.85
7.	骨体中央横径	25	1	27	6	26.67	41	26.07
8.	骨体中央周	83	1	83	6	85.17	41	87.22
9.	骨体上横径	28	2	31.00	6	30.17	42	30.62
10.	骨体上矢状径	24	2	23.50	6	24.50	42	24.83
6/7	骨体中央断面示数	112.00	1	96.30	6	102.03	41	111.72
10/9	上骨体断面示数	85.71	2	75.81	6	81.29	42	81.34

#### 4. 大腿骨 B

両側の骨体が残存していたが、計測はできない。粗線の発達が悪い。骨体の径はそれほど小さくはないが、形態的特徴を考慮し、ここでは一応女性大腿骨としておきたい。

#### 5. 脛骨 A

両側の骨体が残存していた。径はやや小さいが、骨体はわずかに扁平傾向を示している。計測値は、中央最大径が 28 mm（右）、30 mm（左）、中央横径は 20 mm（右）で、中央断面示数は 71.43（右）である。骨体周は計測できない。最小周は 70 mm（右）である。

骨体の径は男性とするには小さく、女性とするにはやや大きい。骨体の形態は男性的であるが、ここでは一応性別不明としておきたい。

Tab. 15 上腕骨計測値 (mm)

		第 155 号墳 A 女性 左	
5.	中央最大径	20	
6.	中央最小径	15	
7.	骨体最小周	—	
7(a)	中央周	59	
6/5	骨体断面示数	75.00	

Tab. 16 大腿骨計測置 (mm)

		第 155 号墳 A 男性 右	
6.	骨体中央矢状径	28	
7.	骨体中央横径	25	
8.	骨体中央周	83	
9.	骨体上横径	28	
10.	骨体上矢状径	24	
6/7	骨体中央断面示数	112.00	
10/9	上骨体断面示数	85.71	

Tab. 17 脛骨計測値 (mm)

		第 155 号墳 A 性別不明 右 左	
8.	中央最大径	28	30
8 a	栄養孔位最大径	—	—
9.	中央横径	20	—
9 a	栄養孔位横径	—	—
10.	骨体周	—	—
10 a	栄養孔位周	—	—
10 b	最小周	70	—
9/8	中央断面示数	71.43	—
9 a/8 a	栄養孔位断面示数	—	—

Tab. 18 歯の計測値 (mm)

		第 155 号墳 男性	
		近遠心径	頬(唇)舌径
上顎右側 I <sub>2</sub>		6.89	6.06
	P <sub>2</sub>	7.74	9.85
下顎右側 M		11.20	11.20
	左側 C	7.00	7.69

(MはM<sub>1</sub>かM<sub>2</sub>と考えられる)

総 括

山口県萩市見島にあるジーコンボ古墳群の昭和36、37年に行なわれた発掘調査で出土した人骨の一部を研究する機会に恵まれたので、人類学的観察および計測を行なった。その結果は次のように要約することができる。

1. 今回調査できた人骨は第123号墳と第155号墳から検出された人骨であるが、これは当時出土した人骨のすべてではないようである。
2. 第123号墳出土人骨は1体分で、第155号墳出土人骨には2体分の大腿骨があり、また萌出直後の大臼歯があることから、幼小児を含めた3体分の可能性がある。
3. 第123号墳出土人骨は四肢骨の骨片のみでその特徴は全く不明である。第155号墳出土人骨のうち今回確認できたのは上腕骨、大腿骨、脛骨、歯である。
4. 出土人骨の所属時代はいずれも8世紀中葉をさかのぼらない時期のものと推定されている。
5. 女性上腕骨は、骨体の径がやや小さく、骨体の扁平性は弱いものであった。
6. 男性大腿骨は、骨体は男性としては細い方であるが、柱状形成の傾向が強く、骨体上部の扁平性は認められない大腿骨であった。
7. 今回、観察や計測が可能で、他の資料との比較検討ができたものは、女性上腕骨と男性大腿骨だけであった。この時期の人骨は全国的にも数少ないので、日本人の形質変化を弥生時代、古代、中世と連続的に考察することができないのが現状である。当然山口県においても条件は同じであるが、弥生時代には、本県の西部地域に高顔、高身長を特徴とする人々が認められるだけに、弥生時代以降の形質変化にも注目している。

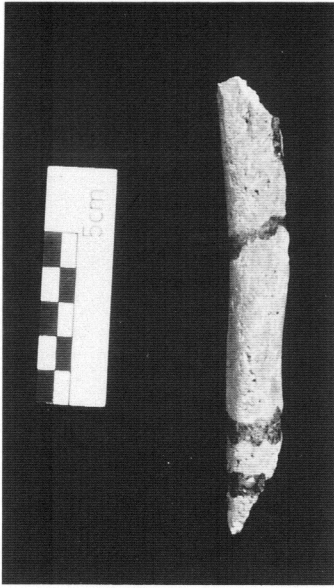
《欄筆するにあたり、本研究と発表の機会を与えていただいた山口大学埋蔵文化財資料館の河村吉行先生、森田孝一先生に感謝致します。》

## 参 考 文 献

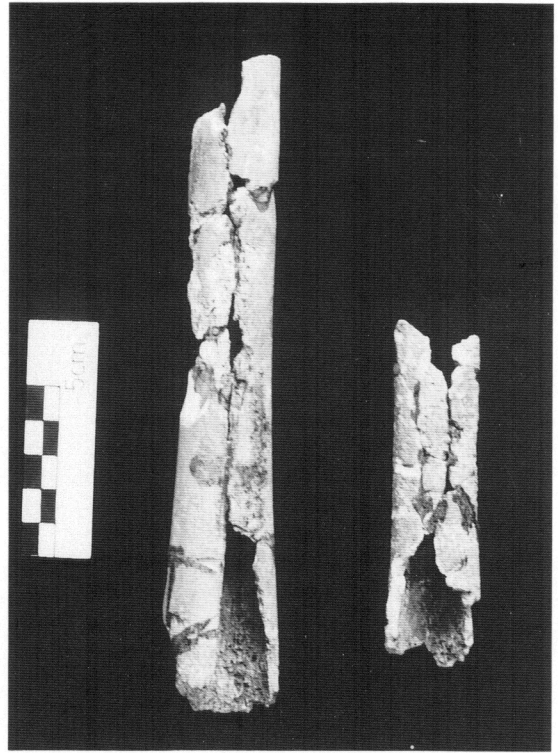
1. 藤田恒太郎、1949、歯の計測規準について。人類学雑誌、61：27 - 32。
2. Martin - Saller, 1957 : Lehrbuch der Anthropologie. Bd.1. Gustav Fisher Verlag, Stuttgart : 429 - 597.
3. 松下孝幸、1981 : 大友遺跡出土の弥生時代人骨。大友遺跡 (佐賀県呼子町文化財調査報告書 1) : 223 - 253。
4. 松下孝幸、1982 : 山口県朝田墳墓群第Ⅱ地区出土の人骨。朝田墳墓群Ⅴ (山口県埋蔵文化財調査報告第 64 集) : 179 - 206。
5. 松下孝幸、他、1983 : 山口県山口市朝田墳墓群第Ⅱ地区出土の人骨 - 総括篇一。朝田墳墓群Ⅵ (山口県埋蔵文化財調査報告第 69 集) : 219 - 242。
6. 松下孝幸、他、1983 : 山口県防府市玉祖遺跡出土の平安・中世人骨。玉祖遺跡・西小路遺跡 (山口県埋蔵文化財調査報告第 70 集) : 147 - 148。
7. 松下孝幸、他、1983 : 山口県萩市見島ジーコンボ古墳群出土の平安時代人骨。見島ジーコンボ古墳群 (山口県埋蔵文化財調査報告第 73 集) : 32 - 36。
8. 松下孝幸、他、1984 : 防府市周防国府跡出土の平安時代人骨。防府市文化財調査年報Ⅶ : 535 - 544。
9. 山口県教育委員会、1964 : 見島総合学術調査報告。
10. 山口県教育委員会、1983 : 見島ジーコンボ古墳群 (山口県埋蔵文化財調査報告第 73 集)。



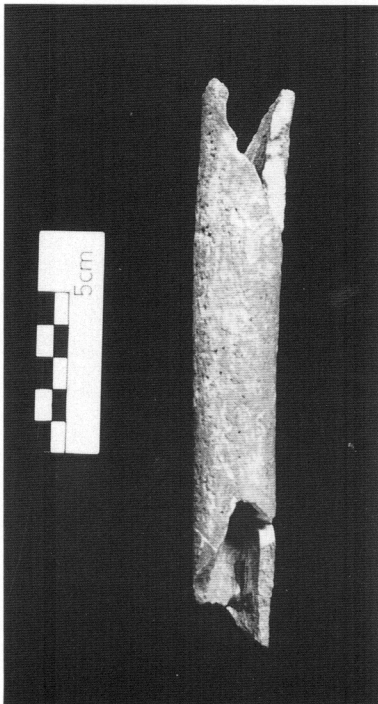
山口県見島ジークンボ古墳群出土の人骨



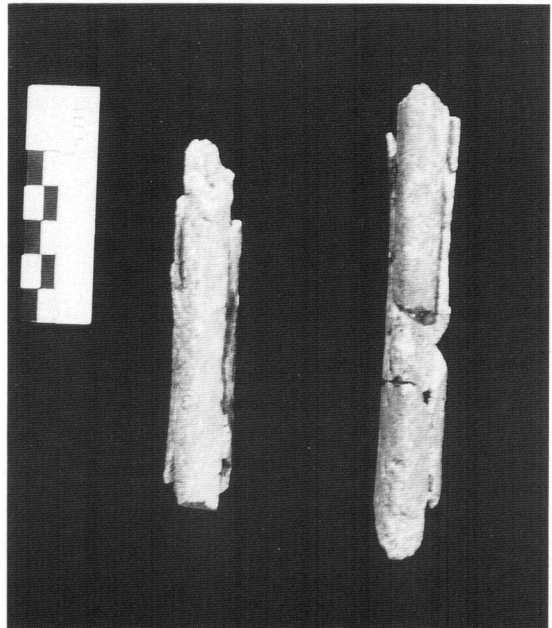
上腕骨A (左側)



大腿骨B



大腿骨A (右側)



脛骨A